

2019年度協定留学プログラム
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	文学部 ドイツ語圏文化学科 3年（留学年次） 4年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 ザルツブルク大学
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2019年 10月 1日 ～ 2020年 1月 31日 出国日 2019年 9月 11日 最終帰国日 2020年 3月 23日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計1,500字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく仔細な記述をお願いします。

1. 留学全般について

(1) 留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

第1報告書を提出してから一ヵ月もたたないうちに新型コロナウイルスの影響を受けて大学が休校し、後に途中帰国したことによってどうしてもやり残したことが多かったように感じている。日々の勉強やコミュニケーション、自分のケアなど、生活面で重点を置きすぎて思い切った旅行や校外学習のような、今回の留学の目的に含まれる事柄を体験することが叶わなかった。

その代わり、他国の生徒との交流の中で言語学習への意識を高めることができ、国外の社会事情・比較したときの日本の現状に対する関心を留学前よりも具体的に持つことができた。

(2) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

他の先輩方も書いてらっしゃったように、ドイツ語・英語はやって損をすることはないと感じた。今回改めて自分の語学力はまだ自分の理想には遠く及ばないと感じ、それは逆にこれからの学習や進路の決断に為の熱量にもつながった。

渡航前の準備は荷造りや手続きのための書類など、想像以上に複雑で大きな手間になるので、渡航後の不安要素を減らすためにも自分以外の人(家族など)とも確認を取りながら進めておくことが大切だと感じた。

2. 留学先大学について

(1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

講師の先生方は留学生に対してとても寛容で優しく、我慢強く授業を行っている印象を受けた。個人的にはやはり難しいと感じる講義が多かったが、日本の学校のように授業を中断されても嫌な表情をしたりおごなりにすることなく、再度説明しなおして下さったり、次の授業のための積極的な補助も受けることができた。個別の面談、面接試験でも対応は丁寧で日本への関心度も高く、質問も多くいただいた。

(2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

キャンパスは中心街より南側に方々に設置されており、私が通っていたのは学期前のドイツ語集中講座も行われていた、UNIPARK NONNTAL と呼ばれる最南端のキャンパスだった。他のキャンパスを訪ねる用事が無かったため自分のキャンパスのみの説明になるが、キャンパス内部は複雑で最初は戸惑ったが、ツアーに参加し何度か通っていると慣れるようになった。角にカフェテリアがあり、スーパーよりは少々高価ながら飲食物を購入でき、内部のテーブルが開いていれば勉強もできた。図書館は地下にあり、持ち込み物は制限されているものの中で勉強ができるスペースもあるようだった。

(3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

10月1日の学期開始前にはドイツ語の集中講義が二週間にわたって平日毎日行われ、学期前の準備ができた。41ユーロ前払いで送金し、授業開始時にテキストを二冊別で購入した。2つのレベル別のクラス(A1+向けとB1+向け)があった。

学期開始後はドイツ語学科主催の通常授業とは別に、外国語センター主催でより多くの言語を学べるクラスが設定されていた(別料金)。

生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

オリエンテーションとして説明会、大学内・図書館内ツアー、希望者向けのバディミーティング、希望者向けの懇親会が学期前二週間にわたって行われ、学校内の設備、教室の使い方についての説明を受けられた。また、そこでできた留学生友達との情報交換もし合えた。

ザルツブルク大学の生徒による留学生支援有志団体も街のツアーや遠足、相談室・事務所の開放を行い支援に積極的であった。

資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

特にそのような情報は得なかった。

(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。

想像以上に良かった。日本について興味があり親しくしていた現地に住む友人は「日本は世界で一番安全だけど、ここオーストリアはヨーロッパで一番安全だ。」と話していて納得した。勿論夕方から夜にかけての駅前には多少声を荒げて騒いでいる人の群れを見かけたが、特にこちら側に絡んでくることもなかった。駅前、観光地付近には多くの移民難民のホームレスの人々があり、日本とは異なり積極的にお金を恵んでくれるようにこちらに声をかけてくるので、最初は少し気まずい、怖い、申し訳ないと思っていたが慣れると横を通れるようになった。

他の留学生の友人の話では、ヨーロッパ各国にそのような人達はおり、生理用品や食料を恵んだこともあったそうだが、ザルツブルクのホームレスの人々に同じようなこと(お金ではなく物を恵むこと)をしようとする「お金の方がいい」と言われ、呆れてしまった、ということだった。

(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。

(6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)
Deutsch als Fremdsprache. Mittelstufe I, B1 (9ECTS)	
Deutsch als Fremdsprache. Mittelstufe II, B2 / Teil 1 (9ECTS)	
Musikhistoriographie ("Requiem, but no peace") (5ECTS)	
Culture at Work (English Drama Group) (Group 1) (3ECTS)	
Transkulturelle Perspektiven: Musik und Tanz (Sound Studies: Geschichte, Debatten und neue Ansätze) (6ECTS)	

3. 宿舎について

(1) 種類

大学の寮／アパート／ホームステイ／~~その他~~（自分で選んだ学生寮）

(2) 家賃

月額（現地通貨）約 273€、（日本円）約 33,000 円

(3) 食事

食事付き（朝・昼・夕）／~~自炊~~／その他（ ）

(4) 大学までの交通手段、所要時間

~~徒歩~~／自転車／~~バス~~／地下鉄／その他（ ）、計 15～30 分

(5) 感想、良かった点・悪かった点

二人部屋でこの家賃はザルツブルク大学付近では平均的な値段だった。しかし、寮内の設備が高品質で清潔であり、交通の便も良く、スーパー、駅、バス停、郵便局、病院が近くにあったことを考えると値段以上のものだった。

4. 費用について

(1) 学 費

（現地通貨）約 0€、（日本円）約 0 円

(2) 渡航方法と金額

~~飛行機~~／船舶／その他（ ）、（日本円）往復で約 23,000 円

(3) 生活費

（現地通貨）~~月額~~・年額 約 490€、（日本円）約 60,000 円

※ 宿舍費を含めた金額を記入してください。

(4) 費用の持参方法

国際キャッシュカード／~~クレジットカード~~／国際ブランドプリペイドカード
／~~現金~~／その他（ ）

⇒ その方法についての感想、良かった点・悪かった点

大金を持ち歩かずに済んだ。

現金は普段の買い物、友人同士の貸し借りや自販機を利用するのに役立った。

(5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

飛行機代の一部として：20 万円

5. 保険について

(1) 保険会社名

① 東京海上日動

② SGKK

(2) 保険料

① 月 1 万円

②月 59,57€、途中値上がりして 61€

(3) 加入した保険の種類、内容

①

②学生保険

(4) 感想、良かった点・悪かった点

留学する際の取り決めとして旅行保険に入る必要があったが、オーストリアで滞在許可を取得するためにはオーストリアの保険に入らなければならなかったため保険に二重に入ることになってしまった。

大きな怪我や病気にかかる事が無かったのは幸いだったが、特に利用することなく留学を終えてしまったので長所短所はわからなかった。

6. 荷物について

(1) 荷物の送付方法

~~手荷物~~ / 船便 / ~~SAL便~~ / 航空便 / 海外宅配便 / その他 ()

(2) 持って行って良かったと思う物

日本で使っていた参考書、電子辞書、薬(目薬、錠剤)、ヘアアイロン、変換プラグ

(3) 持って行く必要が無かったと思う物

特になし。

(4) 持って行けば良かったと思う物

特になし。

7. 平日および週末の平均的な過ごし方

(1) 平日

学校が基本午前大体の授業が終わって昼は帰宅できたので昼食をとった後は午後にかけて翌日分の課題をこなし、夕方授業がある日は再度学校に向かっていた。基本バス通学で街が発行している学生定期を購入していた。バスの定期は夏学期と冬学期で値段が変化した。

(2) 週末

課題をやる他には寮周りを友人と散歩したり、カフェで勉強したり、料理を作り合ったりしていた。一人の部屋に集まってドイツ語、英語で字幕を付けて映画を見ることもあった。

8. 後輩へのアドバイス等

同年代の他国からの学生との交流はなかなか体験できないものなので、飲み会、パーティーに行かなくとも、積極的に話しかける、どこかにご飯に行くようにしてみると最初は緊張すると思いますが良い勉強になり良いと思います。しかし人間関係の中で日本の常識に固執しすぎ

ると疲れてくることもあると思うので、一人の時間を大切に使ってほしいと思います。心身・体調を崩した時には無理をしすぎないでください。病院も薬局も勿論ありますが単身で診察を受けに行くのは困難ですし、かえって心労が増します。バディーがいても基本心細いです。

最後に、約半年しか滞在することができなかった私がこんなことを書くのも変ですが、新型コロナウイルスでそもそも留学に行けなくなる方もいらっしゃると思いますが、本当に行きたければいつ行っても価値があると思います。がっかりしている方も諦めず機会があれば是非挑戦してみてください。

9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。